



自分にしかできない表現を追求していく。

西浦 正倫

(生産リーダー / デニム、ヴィンテージ加工の品質・生産管理)

子供のころからファッショへの興味が深かったという西浦さん。学生時代に、自分だけの風合いになっていくジーンズが好きになり、その製造が地元で行われていると知り、職人になりたいとの思いからこの職業を選んだそうです。「入社後は、加工に使用するヒゲ型(量産ひな形ヒゲプレート)の作成をはじめ、ヴィンテージ加工、立体加工等商品全般の開発・製造に携わってきました。

現在は、ダメージ加工、ヴィンテージ加工の開発管理業務を行っています。」それらの加工は、デニムを長年履きこんだ履きジワや退色感を手作業により仕上げるもので、職人の個性が強く表れるそうです。「最近は加工に自分らしさを出せるようになりました。自分が加工し、変化していくジーンズを目にしていると、やりがいを感じます。」

ジーンズが好きで、長年技能を高めてきたことが認められ、2019年には産地で高い技能を有する職人「繊維マイスター」に認定された西浦さんの今後の目標は、若手の育成。「職人化している作業を見る化し、微妙な感覚を若手に正確に伝えられるよう工夫していきたいです。自分の技能を伝えていくとともに、自分自身としては、これからも自分にしかできない加工表現を追求していきたいですね。」



もっと生の声

Q & A

—— 入社当時、苦労したことは何ですか？

最初は見よう見まねでやっても、なかなか自分の思う仕上がりにならず苦労しました。粘り強く先輩に教わりながら取り組んできた結果、今では商品を見ればどの様な加工を行ったかが分かるまでになりましたね。

—— ジーンズにまつわるエピソードを教えてください。

これといったことはないのですが、お店でいろいろなジーンズを見ると、ついどういう加工をしているか想像してしまいます。自分なら、もっとここをこうするとか、すぐ考えてしまいます。職業病ですね(笑)。

—— 心掛けていることは何ですか？

リアルな加工表現を追求していくことです。穿いている人の体型やライフスタイルを想像して、ここにヒゲをいれるとしたらどういう動きをしているか、など考えながら加工しています。

